

## 世界に誇れる優れた生産装置の水田

四国経済連合会参与（中国四国農政局長）

勝山 達郎



農政の大転換の第一歩となる戸別所得補償モデル対策が4月から開始され、加入促進に全力で取り組んでいます。対策のねらいは、農業従事者の減少・高齢化、農業所得の激減、耕作放棄など危機的状況の中で、農業の立て直しと先進国で最低水準の食料自給率の向上にあります。このため、恒常的に赤字に陥っている主食用米、自給率が低い麦、大豆等で、3月に策定された新しい食料・農業・農村基本計画で明確にされた再生産可能な経営の確保をする所得補償により、水田農業が継続できる環境を整えます。

さて、サンフランシスコ総領事館勤務での私の著書「転機に立つカリフォルニア農業と米作」で、地球環境問題におけるカリフォルニア農業の持続性の観点から二点の課題を取り上げました。一点は、農地の砂漠化です。乾燥地の快晴とシエラネバダ山脈の雪を活用した高生産性農業の多くの農地で塩害が発生しています。灼熱による水分の蒸発に伴い塩類が農地に残り集積しています。世界では、毎年、日本の全農地460万haをはるかに超える面積が砂漠化しています。もう一点は、水資源開発の限界や干ばつなどで水需給がひっ迫しています。地球的規模で水不足が懸念される中で、食料の約6割を海外に依存する日本の農産物輸入は、1年に約690億トンもの水輸入に相当します。これは日本の農業による利用量を大きく上回ります。一方、人口増加、中国等の経済発展、バイオマス活用等により世界の食料需要の増加が予想されます。

その中で、日本の水田は、溜池、水路など農業水利施設と一体化した優れた生産装置であり、水田は細胞、用水路は動脈、排水路は静脈という生命にも近い精巧なシステムとなっています。カリフォルニアの農地は排水路である静脈がないために不全を起こしているのです。精巧なシステムは、先人により血と汗で築かれ2千年の長年にわたり引き継いできたものです。台風の襲来など厳しい気象、国土の7割が山という急峻な地形等の条件の中で、ヨーロッパの三圃式農業導入の要因となった連作障害も無く、国民に主食である米を安定的に供給し、洪水防止、水源涵養、生物多様性の保全などの多面的機能も発揮しています。日本には、動静脈のように広がる40万kmの水路、弘法大師が改修した満濃池を代表とする溜池が21万あります。新しい基本計画では、これら施設の老朽化が進み、施設機能の監視・診断、補修、更新等を行うとし、人間ドックなど予防医学のような長寿命化に向けたストックマネジメントが必要とされています。

水田と一連の農業水利施設、そこでの米作りは、日本の原風景、地域の宝であり、世界に誇れる国民の財産と言えます。この機能を最大限かつ持続的に発揮するための基盤をしっかりと構築し、農業・農村を元気にする。その6次産業化により地域経済の活発化も期待されます。わが国の水田農業を再生し次世代に引き継いでいくことが必要ではないでしょうか。